情報提供

中体連から見た部活動の地域移行

岩手県中学校体育連盟　理事長　小野　甚市 氏

はじめに

近年、運動部活動を取り巻く環境は大きく変化しています。平成25年に、文部科学省から示された「運動部活動での指導のガイドライン」により、指導における体罰・暴言の根絶に向けた取組をこれまで以上に進めることとなり、本連盟でも「マナーアップ運動」を展開してきました。また、平成30年には、スポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示され、運動部活動を持続可能なものにするため、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築することが求められました。このガイドラインにより、週2日の休養日（平日1日、週末1日）を設定することやスポーツ医・科学の観点から活動時間（平日2時間程度、休日3時間程度）は、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行うこととなっています。

そして令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を発表し、少子化の中でも将来にわたって生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会確保に向けた国の考え方を示しました。

本県運動部活動の現状

本連盟による調査では、部活動数や生徒数は年々減少傾向にあります（表1）。5年前の平成30年度と比較すると、部活動数は183部、生徒数は4，961人減少しています。

これは本県の中学校在籍生徒数が減少していることに伴い、各学校ではこれまで設置していた部活動数を維持することが困難になっていることや、令和元年8月に岩手県教育委員会が改定した「岩手県における部活動の在り方に関する方針」において、「部活動は自主的・自発的な参加により行われるものであること」、「参加を義務付けたり、活動を強制したりしないこと」を明示したことが影響していると考えられます。

（単位：人）

年度	部活動数	生徒数
H30	1,646	25,002
R01	1,646	24,178
R02	1,568	22,939
R03	1,568	22,655
R04	1,513	21,677
R05	1,463	20,041

【表1】部活動数・生徒数調査
（岩手県中学校体育連盟）

学校部活動の地域移行と中学校体育連盟

国のガイドラインでは、「学校部活動の在り方」「新たな地域クラブ活動の在り方」「学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備」「大会等の在り方の見直し」の4つを必要な対応としていますが、一般的に「部活動の地域移行＝中体連」というイメージが強く、4つの対応全てを中体連が取り組むべきものと捉えられていると感じます。あくまでも中体連に求められている取組は、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた「大会等の在り方の見直し」であり、部活動の地域移行は、岩手県や県内33市町村、競技団体も含めた関係機関が一体となって岩手の子供の環境を構築していくことであることを、改めて整理しながら取り組んでいく必要があると考えています。

令和5年度の地域スポーツ団体等の参加条件

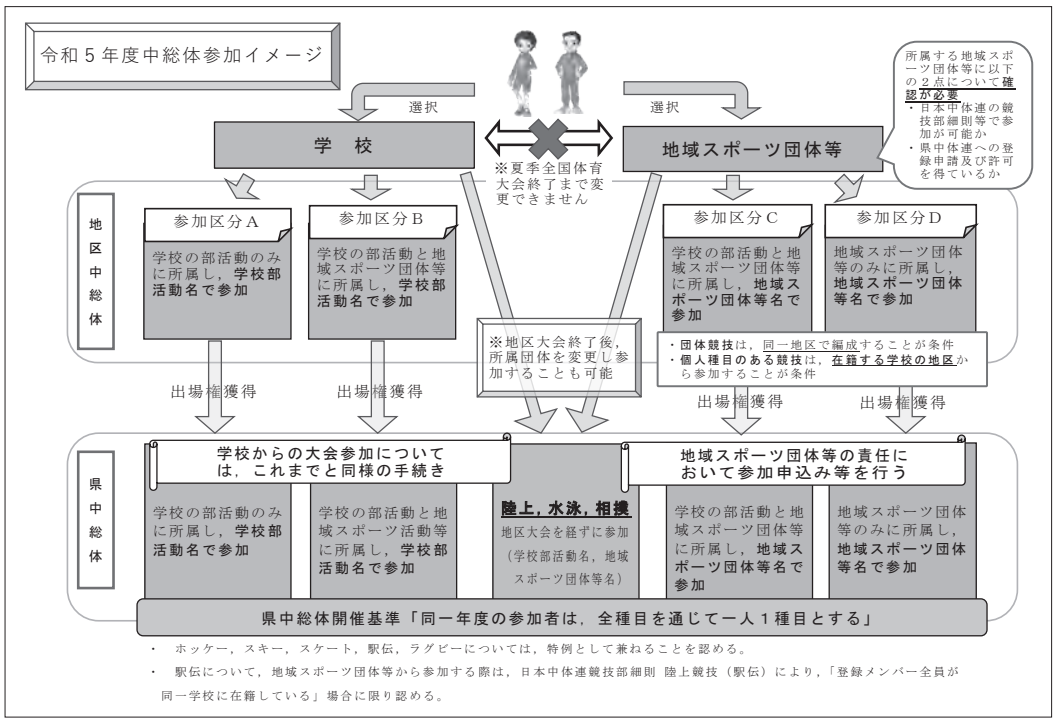
「地区中総体からの参加を原則とする（ただし陸上、水泳、相撲は県中総体からの参加）。団体種目は同一地区の学校に在籍する生徒のみで編成すること。個人種目は、在籍する学校の地区から参加することも可能。また、競技によって参加できる条件が異なる。」としました。

学校部活動と地域スポーツ団体等のどちらにも所属している場合は、両方で活動する

ことは可能、中総体の参加については、どちらで参加するのか選択することとしました。

なお、条件等の詳細についての資料は、本連盟のホームページに掲載していますし、今後更新していく情報についても随時ホームページに掲載していきます。

詳細についてはこちら
みてね！確認してね！



【図１】中総体参加イメージ

令和5年度地域スポーツ団体等の中総体参加状況は？

本連盟への登録を認められた団体は、９種目（陸上、水泳、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、剣道、相撲）21団体でした。地区の内訳は、二戸地区１団体、岩手地区１団体、盛岡市５団体、花巻市１団体、和賀地区１団体、胆江地区１団体、一関地方３団体、気仙地区３団体、宮古地区１団体です（陸上の２団体、相撲の２団体を除く）。

この中で、地区大会を勝ち抜き県中総体に参加した団体は６種目（陸上、サッカー、バレーボール、バドミントン、剣道、相撲）10団体でした。

今後に向けて

生徒のスポーツに関する多様なニーズに応えられる施設や環境は、県内でも地域によって差があり、そのニーズを満たす場は学校部活動である場合が多いと考えられます。

本県の運動部活動は、これまでも地域の実情に合わせた形で実施してきましたが、生徒数の減少や学校外のスポーツ活動に取り組む生徒の増加により単独校でのチーム編成が困難になってきているなどの課題や、在籍する中学校に小学校から取り組んでいるスポーツの部が設置されていないなどの現状もあります。

長きにわたる中体連の歴史の中で最も大きな改革と言うべき「地域移行に向けた検討」ですが、運動部活動やスポーツ活動に励んでいる中学生の「心豊かな成長」を第一に考えながら、その主役である中学生の成長を支えていくという姿勢を大切に、関係機関と連携を図りながら今後も取り組んでいきます。

プロフィール

小野　甚市
（おの　じんいち）

平成６年度から教員生活をスタートし，岩手大附属中勤務を最後に教育行政へ異動。宮古・中部・盛岡教育事務所，県教育委員会の勤務を経て令和４年度から現職。